



精好の袴の上被りて結ぶ白露をうろく只當感嘆の膝打鼓其破落々々と
落く碎る名刀の奇特を疑ひ忽地解るる然る大なる聲高き
等々霎時大出太郎からて王に証あれは疑心ハ既ハ氷解すその大刀これハ
どくくんとつとく太郎ハ欣然と身を起こさんと程ハ松枝真弘推禁のくこを
不覺ハ大出生衆中途の見参とも貴人ハ咫尺をてあふ帯刀をうろく陣り
あり況白刃を引提く近つたるよりあふ大刀をうろく速与一更といへども
聴くを頭をうろく掉り原來和殿ハ某を疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ
それハ亦人々を疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ疑ひ
中ハ刃を隠し貪慾邪怪ハ量りかゝる然るを今虚々と高貴人へとく心故
一之身ハカえとて一室を左右人達ハ速与一之價ハ賜ふ豪奪せられハ
それハ孤獨の旅客ハ斯夥る人々と争ふとてその甲斐ハ大刀ハ大なるも

復さふ可惜命を喪ふハ所ハたふかふ舊らで後悔あれをうろく
とを定正のあふと郎が當坐の遠慮ハ慎み此所以にれども亦
人ハあふべき大約六十六箇國龜甲の如く封疆を建て教國を領し
大諸侯東ハあふ多うは予を良君とあふ家室の大刀を齎して
なるあふ推参はんやあふ予ハもの村西より大刀の主を愛む人時冥あふ
高祿りて召使ハ大出太郎を疑心ハ要知れども聊ハ厭ハハ大なる
とくあふあふと許せられ鷹揚ハ寛仁大度の主命ハ真弘勿地
開口ハ遂巡するのそれハ大出太郎ハ欣然と刃を引提く身を起こしてあふ
らハ御免を蒙るべくあふ問せと定正の妹ハのほろ小櫓と寄りて跪き
件の大刀を進められあふ胸前挺く仰あふ突倒し推伏て刀尖見りと
さし著れば吐嗟と騒ぐ松枝十郎龜門三宅平妻有六郎その餘の近臣外



名乃を
閃あつく
道節定正
を刺す



矢を咄と作と頭れを一個の若武者に。いふ。そなたの。おれは。素組の。糸。
 りと。壺。盧の花を。知々。縫。箔。を。狩。装束。小。萌。葱。威の。身。中。へ。精。好の。奴。務。の。
 龜。甲。鈎。ろ。脰。甲。膊。鎧。を。透。間。も。あ。く。具。足。ひ。の。腰。中。二。尺。五。六。寸。の。金。作。の。大。刀。の。
 海。豹。の。尻。鞆。被。ろ。九。寸。五。分。の。短。刀。を。横。佩。左。の。小。重。藤。の。弓。の。握。太。分。を。挾。
 えて。鷹。羽。の。征。箭。兩。條。を。把。を。え。ろ。の。隊。の。兵。三。十。餘。人。あ。り。短。鎗。の。刃。頭。を。
 揃。へ。道。節。が。前。後。左。右。を。糾。々。と。捕。繞。つ。復。武。者。音。を。揚。ろ。當。下。
 件。の。善。武。者。ハ。弓。杖。突。ろ。声。高。ろ。愚。ろ。犬。山。道。節。良。將。ハ。あ。ろ。時。運。
 稱。ハ。神。助。あ。り。官。領。の。ろ。汝。ハ。孤。客。ハ。數。れ。ろ。ん。や。ろ。謬。ろ。汝。ハ。為。
 命。を。傾。せ。假。官。領。ハ。只。是。當。家。の。勇。臣。あ。り。越。杉。駄。一。郎。遠。安。と。名。れ。
 め。去。年。池。袋。の。捷。軍。ハ。汝。が。主。君。倍。盛。の。頭。捕。ろ。名。譽。の。感。状。を。賜。ろ。
 剛。者。あ。り。れ。と。汝。が。年。の。ろ。汝。を。ろ。漫。ろ。ろ。悔。ろ。ろ。阿。容。々。々。と。

撃。れ。ハ。不。思。議。の。僥。倖。あ。ん。か。ろ。れ。を。誰。と。ろ。官。領。補。佐。の。二。老。職。武。術。
 文。學。數。嶋。の。道。り。も。暗。ろ。ろ。の。名。ハ。都。鄙。ハ。高。ろ。ろ。巨。田。左。衛。門。大。夫。持。資。
 入。道。道。寛。の。長。男。あ。り。薪。六。郎。助。友。が。父。の。奇。計。を。受。け。ろ。汝。を。謀。り。と。あ。ろ。
 ざ。ろ。父。道。寛。豫。ろ。ろ。豐。嶋。煉。馬。の。殘。黨。の。隙。を。窺。ろ。ろ。あ。ろ。んと。
 ぞ。ろ。速。謀。ろ。ろ。去。歲。の。秋。あ。り。彼。此。へ。士。卒。を。ろ。遣。ろ。七。竊。ハ。撈。り。向。せ。ろ。
 下。野。武。藏。の。間。を。優。倭。塞。ハ。安。を。変。ろ。左。道。を。ろ。愚。民。を。迷。ろ。錢。を。集。め。
 軍。陣。の。便。点。ハ。充。ろ。汝。が。影。迹。既。ろ。頭。れ。ろ。ろ。幻。術。わ。ろ。ろ。捕。易。ハ。
 油。断。の。体。ハ。ろ。ろ。詭。引。を。え。ろ。ろ。官。領。ハ。近。日。より。白。井。ハ。在。城。を。
 ち。ろ。け。な。だ。徇。知。ろ。ろ。倉。庫。を。出。ろ。近。臣。越。杉。が。面。影。の。よ。く。主。君。ハ。似。ろ。
 め。く。堅。一。郎。ハ。大。將。の。狩。裝。束。を。賜。り。ろ。の。五。日。の。早。旦。ろ。砥。澤。の。山。の。狩。倉。ハ。彼。建。
 久。の。む。ろ。を。認。ろ。汝。を。釣。人。為。ろ。父。の。先。見。果。ろ。違。ろ。今。招。む。網。ハ。入。る。汝。が。金。

運うんをつた彈うを討捕うるいと易やすれども敵たきが可あ惜やうに勇ゆう士しを受うか
前まへは被うけむ及びおよび死しの力を量はかりて非ひを悔くひ時の勢いきりを知しる降くだるを
道みち節せつハ謀まうふととひ敵たき計けいを怒おる面おもては朱しよを
詰つる必死ひしの覚期かくきは大刀たうたうより直ちやうと些ちやうも撓たふさず
参呼さんこり九世くじうを易やすむと雙ふた言ごんの奴やつとまれやわん今いま定正ていせいを討得うむと
鎗やうを鍋なべに越こえぬ主まうの仇あひの随まづに數うめられ聊いさ々う君尊きんそんを慰なぐさむ
よがわ恨うらむと父ちちの讐あや竈くわ門もん三寶さんぼう五行ごうぎやうを撃うつと
名なも死し難がた兵へいを幾いく人にん殺ころすやうとれと勝負せんぷを決けつめ
頻あり招まねく不敵ふてきの廣言くわうげん憎にくむと捕とらむの共ともヤツと被うけ
閃ひらめ鎗やうを前後ぜんごに飛越とびこえ及および蹴うめ受うけ流ながれを煨煉ゐれんの刀やいば丁てい々々發はつ石せきと
疾風しやくふうは枝えだを折をぎ鎗やうの煙えん發はつ條じょう狀じやう落らくれと逃にげまわ或あるは眞額しんがく乾竹けんちく割を

或あるは洞創どうそう臂車へいしや矢庭やていは命いのちを預あづかるものも十じふ人にんあつて遠とほく痛いたむを負おふ
中なかつ忍しの地ぢ發はつと開ひらけ靡なび道節みちせつ得えうとあつて進しんむ面おもてもや助友すけともは走近そうじん
つんと道節みちせつは助友すけとも騒さわぐは前刺ぜんさつめ能よく圓まるく標ひらと射やる矢声やこゑと共とも
道節みちせつハ身を論ろんして避さぐる程ほどもや射やる二ふたの箭やを大刀たうたうと丁ていと切き
拂はらふ神出鬼没しんしゅきめつの疾勸しやくかんは助友すけともハ心こゝろ懸かる弓ゆみを厚哩こうりと投捨なげすて大おほきを授さづけ
程ほどは松枝まつえだ妻有つまありの近臣きんしんは時分ときぶんを揣さへ返かへてあつ助友すけともは力を賜たまはれ被撃あはれ
もと下知げちさればその隊たいの兵數へいすう十人じふにん推隔おしへきとて圍かこむ微塵ゐじんはあれと採とり
當下道節たうげみちせつあつて思慮しりょの足たりなく敵たきの謀まうは當あたられ先君せんきんの讐あや
敵たき眞まことの定正ていせいはあつてあつて加か梅父ばいふの雙言ふたごん竈門くわもん三寶さんぼう五行ごうぎやうの隊たいはあつて
海うみは不ふ漫まんに進しんむ戦歿せんぎやくせむ世よの胡慮こりょはあつて大宿望だいしゆくぼうを遂とへるを限かぎり
翌あしたあつてや幸さいやと黄昏くわうこんより只一方ただひとへを殺ころす身みを全まもる時ときを俟まちてあつて

死するところを尋思の胸を固ゆる奮戦突戦初より精神もくかりて多勢
中へ割入る迅に恰勝の如くも一條の血路を開け且戦ひ且走る助友頻に
焦燥之士卒を罵り擲て真弘之通共侶は何処あやめと追ふる活処は
信乃莊助現八小文吾ホの四大士の最良は明龜の山中ゆく莊助が遠眼鏡を
えりといふ武士をどあうくあふらん倘あふとのあふりといふ山を下りて
彼此と尋索くその曠昏は白井の城へ遠うぬ一村を過る程里の老
弱罵駭だ今此くの松原ゆく官領敷れあひより寇二個の浪を
煉馬の残黨あふものとていふく官領のうでを撃れぬ死に彼癖者は殺
されへ去歳の軍は名を揚る御内の越杉といふ人ぞとてふをあれか
あは癖者の術殺煉之單身ゆく瞬間は死んで山を築れといふ逃て
村は走りも入らつたて禦くべ死門戸をどく鎖せ女子ども喧嘩の側杖打

と呼ぶ音声ききく皆東西へ奔走に駭劇大々あふれば四大士うち
驚だく原來此よりゆく復讐の本意を遂へ彼大山をあらんてんを
その如く赴けをいふ虚実をあらうゆんや暮ぬ間や共促歩の運びを
が里遠離る晩闇前面を透し長視れば年尚多死一個の武士は白刃を
うねり追来る敵を物ともせず敵迎つては返して殺靡け撃退ける
戦ふと西三度道のもくくの四大士の間も忽地衝入りて背を立つとええれば往方も
あふりなり。その死巨田助友ホ士卒を頻に駭立て透間もゆく追蒐前
立在む四大士を是も道節を助大力の同類ありとあひらん被撃る下知れ
多勢を頼む捕るの難兵咄と嘯く衝出を鎗の刃頭ハタ立雨の電光の異
を四士はあふともいふと驚き避ても一言の回答は眼をそれ己とを腰刀を
抜合ひ戦ひゆくさ程に難兵ハ只獨ある道節ふぬ撃るあふるる替る

多命を保るゝ勇士のさる所ありて恥亦あり甚れなり。そ彼処へ走
 還りて旅客ホを拯ひん拯ひぬともその人々と共侶死なば生る勝まり。吁あ
 と吐裏にひひ決め違へく綾帯を引締む。裳を褰げて葛直の蕉
 然へ還りて果して四箇の旅客ハ城兵ハ捕圍れて既戦ひ疲勞るんもの
 危殆とへへる。城城中より加勢の武士百騎許をまねりてあひく之勢始
 弥増えハ道節要時尋思を志とせられ。敵の捨る弓箭処々多きあり。又
 組より列卒繩も有り是究竟と忘手なり。弓を据り箭を據りて索を漏さ
 左側より大竹を潜入りて敵の後より近づくと。あめ絶てあめよりかくく又
 道節ハ幾尋う事件の索を彼此の竹をひきあひて引動し。忽地ハ関の音揚
 る。城兵これ驚きされ。さるものや。さるるを竹藪の中より射出。強音空
 箭の多く矢庭ハ命を隕せ。五人及びされ。城兵隊を懸死す。原来敵ハ

伏兵ハ一圓を退治せ。罵る道節ハ索を引。竹を動し。箭を射出。索を
 ひく。暗さハ鳥ハ教中ハ龍の多うんと。あめ惑ふ。城兵ハいり。周章く。さ
 る。道寛の軍術を見馴。剛熟。助友も終は。休む。皆共侶ハ人群撲と崩れ。ハ
 ら。信乃ハ助現ハ小文吾ハの四犬士ハ忽地。さる。力。を。め。る。勢。ハ。衆。ハ。敵。ハ
 歩。程。ハ。追。捨。と。さ。る。迹。を。騎。ハ。荒。莽。山。の。方。へ。走。り。たり。城。兵。ハ。あ。ひ。く。け。く。
 敗。走。り。く。息。つ。れ。あ。む。白。井。の。城。へ。逃。籠。え。ん。と。頻。に。援。手。を。り。たり。ハ。助。友。怒。て
 声。高。や。る。蓬。兒。兵。共。の。逃。足。を。計。る。敵。ハ。煉。馬。の。残。黨。も。や。伏。兵。あ。る。ハ。く。
 怕。る。足。る。め。の。義。中。ハ。箭。を。射。被。け。鎗。を。突。入。れ。て。馳。出。せ。て。逃。る。奴。も。ハ。
 追。蒐。よ。只。一。人。の。數。由。を。後。日。の。咎。を。脱。れ。る。ハ。う。う。ハ。ひ。ひ。と。敦。閑。く。
 烈。く。下。知。を。傳。れ。ハ。城。兵。これ。ハ。獎。え。ん。と。義。の。邊。へ。久。し。多。の。且。箭。を。射。被。け。鎗。を
 入。れ。果。ハ。端。を。搦。分。と。衆。皆。撓。索。さ。る。敵。ハ。む。る。も。在。ら。ぬ。と。財。方。の。送。せ。り。列。卒

縄を彼此の竹に結びて指を原來熟く謀られし速く追躰て再び罵
駈ぶる。時移りて往方を知らず呆れて進む擬勢も助友の後度の不
覚に安らぐ。足ども窮寇に追ふが。圓白井へ退たて便点をもく迷ひ
搦捕ふ。をよりめれとあひくして強き追せ。竊に家縁西へは謀を授けぬ。
真弘之道共侶は全隊の士卒をのりて白井の城を還りくる。宵に
甲夜ぬく寂寥と人跡絶る列餘の松の背に蒼田は風渡る土堤の茅萱を
置く露を命と取く虫の声高くも澄る夕月夜影と薄に單衣の裾を脛
を端折る腰に帯る兩刀の外に刀挿添ふる。怪し一個の武士稻塚の蔭
ありし四下をえり見えり。忽然と立出る。是れ別人なり。犬山道節
忠與あり。既し竹藪の奇計をもく夥の敵を退けく。輒く四箇の旅客を捉ひぬ。
よく躲れく。をの件を教ぬ。在る近地より身を濟し。豫之時分を揣りん。

助友も全隊をゆる白井の城へ還りしを遣過し目送りて再び頭れぬ。
り當下犬山道節は彼此の竹に結びて指を原來熟く謀られし速く追躰て再び罵
駈ぶる。時移りて往方を知らず呆れて進む擬勢も助友の後度の不
覚に安らぐ。足ども窮寇に追ふが。圓白井へ退たて便点をもく迷ひ
搦捕ふ。をよりめれとあひくして強き追せ。竊に家縁西へは謀を授けぬ。
真弘之道共侶は全隊の士卒をのりて白井の城を還りくる。宵に
甲夜ぬく寂寥と人跡絶る列餘の松の背に蒼田は風渡る土堤の茅萱を
置く露を命と取く虫の声高くも澄る夕月夜影と薄に單衣の裾を脛
を端折る腰に帯る兩刀の外に刀挿添ふる。怪し一個の武士稻塚の蔭
ありし四下をえり見えり。忽然と立出る。是れ別人なり。犬山道節
忠與あり。既し竹藪の奇計をもく夥の敵を退けく。輒く四箇の旅客を捉ひぬ。
よく躲れく。をの件を教ぬ。在る近地より身を濟し。豫之時分を揣りん。



うちを^{うち}
打落され^{うちお}驚駭^{おどろ}驟^{とつ}取れんとほむを取らぬぞ道節ハ鷲鳥の如く疾近づて
足を飛して礮と踢る儿頭尖く吭をきく撲折れる灸所あらば声い立に
足をは張る仰反り程もあせは又一人弓は箭刺す樹間より響き道節率
よく迷ふ鳥銃取るよりよく火蓋を鑽て挫と放せば響音と共に樹下ある彼
一人も倒れたる三人が外今しも敵あらずと道節ハ鳥銃をか低投棄る袖を
拂ゆる悠々と高峯のかへ還りゆく宿を何処とおぼしめねども死後主を
思ひ親を忘れぬ天山ハ尾張のまじ上野の白井の城の城将士卒もその里人も後
世も語継たゞ傳へる道節事つとひと死な頻泣兒も立地は声を輟て怕れそ
三國の時張遼が武名ハ小兒を權した遼來々あり目覺れ名を海内ハ揚げけり

地蔵堂に莊助首級を争ふ
山脚村に音音舊夫を拒む

再説信乃莊助現八小文吾宗の
 根るもあぐくは死を究りし小誰
 其れを助めあられが城兵と
 おく夜に紛れ迹を埋めて同意異途お走りて
 ころけるそが中お大川莊助義任の
 義をあふ答とあひふられ進む
 ても又霽る影と細兒爛竹のあは
 何処を投ぐ彼人々お追著んあは
 今いそや三三町おあんとあふ物
 其の山麓おあ著るに嚮あを目あわのり

前へ曳く。壯助ハ亦引着られ、とて、終些も身を動さば、必は千尋の大木は巨根を
 四方に張る。とて、千曳の綱は被ふとも、筋あぐもあふれば、道節ハ、驚死
 おちく、怒く、もあふ程、送ふ方、ぬ、金剛力士の世尊の鉢を争ひ、紫雲を踏む
 外、せ、如く、間、は、両箇の石塔を、互落離、推倒して、忽地、龍首の、あぐなり、られ、
 道節、獲ふと、衝と、寄せ、と、股、は、臍を、踏、入、と、左、を、帯の、締、塊へ、被、と、を、
 莊助ハ、臂を、拵、振、釋、く、雙方、入、躬の、最、は、抽、手、相、撲の、極、秘、卷、法の、妙、奥、互、
 知、ふ、ふ、られ、地を、踏、四、は、力、足、鳥、夜、は、目、標、ハ、暴、雄の、勝負、孰、と、を、た、る、
 果、一、奈、未、與、美の、腕、は、甲、乙、を、けり、この、時、あ、も、彼、老、人ハ、樹、蔭、は、息、を、疑、の、
 透、一、長、視、と、舌、を、吐、死、その、勇、力、ハ、呆、可、端、な、く、難、ろ、ろ、を、聊、覺、あ、
 の、り、久、泳、の、る、面、色、と、走、り、寄、つ、兩、人、が、間、へ、杖、を、衝、入、れ、推、分、ん、と、を、た、
 道、節、も、莊、助、も、再、び、これ、は、驚、死、思、ふ、組、る、を、放、を、卻、含、ふ、落、せ、首、級、の、包、を、

兩人、取、の、ん、と、立、ある、処、を、取、の、も、や、か、又、老、人ハ、間、は、直、と、躬、を、
 推、隔、る、早、速の、動、死、を、も、己、が、肩、を、兩、杖の、畏、物、と、う、落、つ、速、く、躬、を、
 屈、し、頭、ハ、四、下、を、振、撈、る、程、も、は、西、雄ハ、齊、一、焦、燥、立、如、法、夜、は、認、ぬ、敵、當、
 坐、の、も、覺、當、る、任、して、左、右、は、彼、老、人ハ、突、退、れ、ハ、跟、蹤、の、轉、も、倒、れ、と、兩、三、步、
 退、死、と、小、膝、を、突、る、も、下、は、撈、當、ハ、道、節、が、雙、言の、首、級、の、二、包、を、と、ひ、け、ぬ、
 包、と、と、あ、る、ぬ、も、引、れ、左、右、は、抱、死、身、を、起、と、又、ま、と、道、節、ハ、探、り、
 當、る、老、人ハ、兩、箇の、包、を、雙、言の、首、級、と、あ、る、ハ、要、時、も、指、を、諸、の、引、提、之、直、
 躬、と、卒、を、それ、と、む、り、莊、助、ハ、且、く、鳥、夜、は、透、一、の、程、を、揃、り、く、腰、刀、を、見、り、
 丁、と、破、る、竈、ハ、前、の、く、その、邊、は、推、倒、され、る、石、塔の、掉、石の、校、破、と、數、の、刀、火、銃、を、
 牙、を、石、四、五、寸、打、削、れ、て、燈、と、出、る、石、火の、光、は、面、を、認、る、程、も、を、姿、を、隠、せ、
 火、を、獲、く、脱、る、火、道、の、梯、ハ、往、方、も、あ、る、と、老、人ハ、何、跡、を、慕、や、く、舊、來、路、へ、

石塔を破て
莊助
道節と走す

大川莊助

大川道節



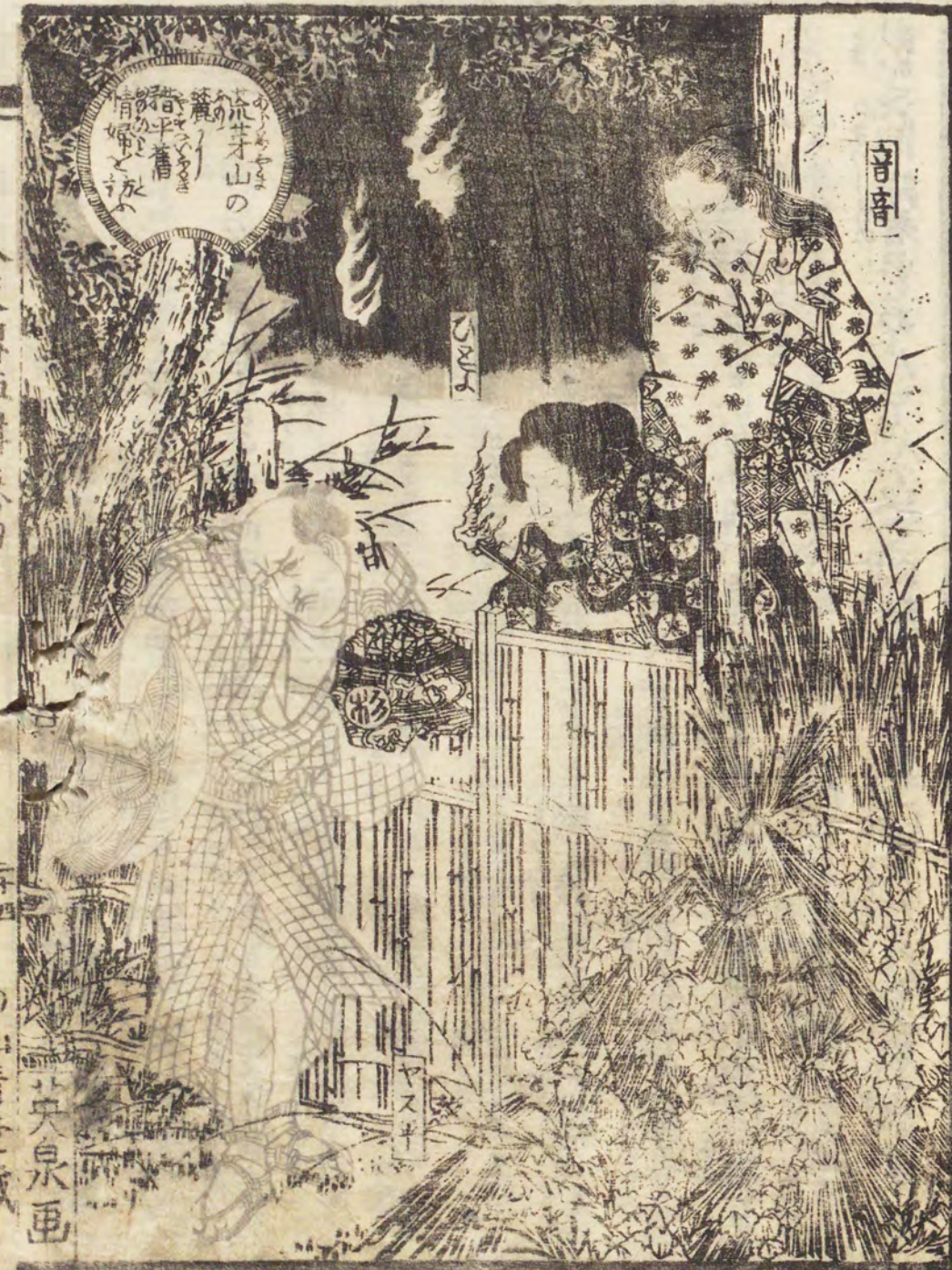
英泉画

走す。かん。莊助。い。赤。と。の。足。音。を。下。め。の。癖。者。あ。べ。と。あ。ひ。け。れ。ば。些。の。猶。豫。せ。ぬ。續。て。
 浅。林。を。走。り。何。処。を。と。投。ぐ。の。荒。茅。山。路。へ。追。蒐。し。を。曇。り。隨。小。齊。の。宵。の。音。の。
 月。へ。没。け。ん。い。と。暗。る。が。その。迹。を。認。め。り。只。知。り。心。あ。く。移。る。彼。山。の。麓。村。を。着。ふ。
 け。る。不。題。上。野。國。甘。樂。郡。荒。茅。山。の。麓。村。小。音。音。と。い。ふ。微。賤。の。老。女。あ。り。け。る。年。の。終。ハ。
 五。十。あ。り。二。三。の。も。の。ぬ。べ。原。へ。武。藏。の。女。を。り。を。故。あ。り。く。去。歲。の。夏。の。一。里。小。世。を。
 避。て。り。熟。ぬ。枝。は。考。食。素。樸。片。木。の。薪。樵。る。錦。倉。遠。近。不。樂。倚。居。か。て。月。日。を。
 ある。郷。の。空。あ。つ。た。三。芳。野。の。田。面。の。雁。の。も。と。と。秋。と。い。ふ。れ。ば。急。き。冬。を。御。免。洗。
 衣。綴。刺。と。い。ふ。鳴。虫。小。聲。さ。れ。く。今。宵。の。夜。延。の。續。亭。暇。か。り。現。世。を。り。苦。難。を。
 今。あ。ら。る。浮。世。の。中。は。老。の。杖。と。頼。と。て。一。面。箇。の。子。共。い。ぬ。る。比。主。の。供。に。戦。場。の。
 赴。死。の。死。せ。り。と。も。生。ま。と。も。あ。る。信。望。を。家。に。還。る。を。兩。箇。の。媳。婦。の。と。兄。が。妻。と。
 申。と。名。つ。け。又。弟。婦。を。單。節。と。い。ふ。年。の。三。十。と。八。公。の。松。の。標。は。常。葉。の。竹。の。子。を。

産せくえ家内妹伏あぐふ玉匣とて近く遠離とてふ隔かた相恩の優
 さを劣らむ姑も朝々竭せ孝行の徳に孤をて鄰へいづく遠に山崎の孤屋にたへ
 あを親族もかく友もなく住得し隨の別世界言訪ふめ八重葎掩蔽し暢ふ
 松風と絶ぬ算の音はまれど女子世帯の水入らば三人あまれば姦と訓ふ文字を我
 う人かむ背門の秋蟬鳴暮しる七月六日の甲夜過る還らぬ人を俟まひし門の
 戸のも鎖ぎらるる有斯く音音ハ續果ぬ芋桶を撥遣り後えよりて喃單節
 きのみよりて管領家の戸澤山の狩倉は斯邊の盡処あて夫役を指し當日を
 辛く免れても愁は舊もぬ遣らぬ彼瘦馬のある故よけふあてハ村長とて許さる
 一か同いふ家小男子の絶くあられバ可愛や曳手が今朝未明あり馬を追ひ
 つ夫と立ちあふ隨は歸るも来に途ゆく荷脱の馬は逢ひ繼いでくるく飯
 んとひやめどのあどや白井あてハも微されハ趣舎まゐるく丁場あて替

馬は好逢ハとも暮し飯らぬあてハ居つたをあらう田文の茂林の邊あて出
 迎ふ、はて事人留守とてといひくけり起さんとほ程は單節ハそく推禁て
 物体はたけ宣ふか生るれ身骨を竊とて天結陰の夜をこめて親を使ふ
 留守や見舞の今迄かう還らぬとて心ふかりゆれど迎はぬかハ阿姑さぬの獨寂く
 慰めらるゝかん抱あひを倍人欲とていひて苦りた胃よの葉煩ハけりおれ宵ハ
 尚甲夜はゆるむ彼茂林の邊あて走一進邁く迎付人要時の程は俟せぬと
 懇は慰めらるゝ立ちあてを引當かん身をせ遣らんとて壁訴をせぬと二人列
 拉より来る顔るるあをわとて又物あひを倍人のと彼玄妙寺の鐘の音今撞
 び初更中を早るくゆく邁違人より且く俟バなり来ん今朝ハ今朝とて
 おん身と曳ぬが夫役は立を争ひつゝかれ邁人彼ゆんとき女子あふ相心
 がぬ馬追ふるも老るるを養ふ便著と眞實ハ心標ハつれを妨敷を

亦行客と面を對して鈍りや錯ひけり。送る再びもんかうくる行客
 ちや呼ぶくちやい音音あやう。これ世郎の藉平なり見忘れける飲けりやと
 名告る小叔とらあ騒ぐ宵合く宛諸折戸を裏面より隙と引蓋し單節の光へ
 名告るをきく。人のあひあはる胸苦し。あやう。姑の袂を驚か振駐て
 ちやぬ客わがを強顔くいつく過し。も彼へ行く良人の姿を映面影あやう。あやう
 ちや心へいとも今宵にあふ歌あやう。武藏のうの今昔を語慰めあやう。あやう
 果は声奇やうふ何うをいつく。あやう。心弱く女子とのをも浮世の美理あやう。あやう
 善あやう。ええ。廿年あやう。縁絶る舊夫の両箇の子共が親や親や。あやう。あやう
 多く名告も會はむ。此不軌は異やんや世郎との縁あやう。又藉平といふ公羽小言
 覚絶るや。譬は認めぬ客なりとも故主の鴻恩忘る。あやう。あやう。あやう。あやう
 今宵八疎のう。あやう。あやう。あやう。あやう。あやう。あやう。あやう。あやう



仇人の民とあるおの美理は背け人よ。武蔵のふれ今昔をわ
相譚ふべに尽る捨と措けり情を被ぬひとと敦園卓地先女の二轍をを理とを以
子一軍節のいふ苦ささ背向なりと嘆息を稽平これを浅き音音恨
さぞあつた。豈夫婦の情義をめて阿客々々として死身を訪ふを忘れぬ死を故
主の恩下日も仇なるものぞ浮世の塵を避り漁夫とあり果て又一介の功も何面
目帰参の勸解して子共の身の幅を狭くせられぬ素素の志あるもの
心もとて今令郎君のうへん且又子共の身をも竊に報んとせむ武蔵の盡
うとくと恥かやうと詰るる且くあを聞てと敵く折戸の内より音音
子共の身をも竊に報んといふ再び買ひ懸けぬ。次へて同春もたぬと想を
ふく我も軍節が涙脆き今の世の人心親同胞でも断絶其身の仇を例も外より
敵が民間謀者であんぞんぞと鎖心をて門の外されぬと益ある想

咄々々音音暴く縁頼ある障子を破と蘭隔く母屋へ退り入りなり軍節をわき目
送りつさる氣剛き姑の心の底を汲ぬものどあつた良人の安否を問おほさる母屋の
とぞとぞと遠く指燭を弗と振滅て竊に折戸を引開て稽平を透しと痛く
暗夜何時も立せぬ阿姑所并の礼を言ひ年来大人のわんを思食する誠心
腹をくかかせぬこの山辺客店なり且く彼処の柴置小屋の途の疲勞を休ひぬ
おれを候ぬ母屋に伴ひおぬん。さる軍節とぬれぬ。娘むなりと名告あつた
涙を袖に押拭へ稽平あつた然びと原來を知らぬ豫てはく凡は妻軍節あり
ふ年来の志と情由を音音があつたわかれ罵めるとも辱められ廿年あり胡越の
絶之今如故王へ竭に忠義とわん鳴呼れぬも竊に令郎君を見参て稟試をわ
一談ありさる父共が人を母も想おも告んとするに子共の空しく還る本意
あつた臥房なりや何れおれ。一宿曉さるあひひと。今軍節は又ち泣く世とて時と

